



2020年4月10日

2020:聖金曜日 主の受難 説教

今日の盛式共同祈願は、教皇フランシスコの呼びかけで、全世界で、新型コロナウイルスの感染に苦しむ世界のための意向が付け加えられます。京都教区の祈願です。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のために祈りましょう。神が苦しむ人々を支え、病への恐れと不安を取り除いてくださいますように。(しばらく沈黙の後、唱える。)

あわれみの神よ、感染症で亡くなった人々に永遠の安らぎをお与えください。病に苦しむ人に必要な治療を与え、医療に携わる人を感染からお守りください。ともにいてくださるあなたに支えられ、不安と混乱に襲われた世界が希望を取り戻すことができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

主の受難を黙想しましょう。イザヤ書で預言された、あの「軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負った人」、それが受難のキリストです。キリストは今日も、世界の苦しむすべての人々に寄り添ってくださるのですが、わたしたちは、十字架上の死で終わるのではなく、三日目に復活し、いのちの勝利者となられたことを知っています。「見よ、キリスト十字架、世の救い。ともにあがめ、たたえよう」と十字架を崇敬します。キリストは辱められ、十字架の死までも耐え忍びながら、父の御旨に従い、罪と死と悪魔の力に打ち勝ち、わたしたちの罪を贖ってくださったのです。このキリストの苦しみの結果として、わたしたちは、いのちの勝利の希望を持つことができます。人は、誰もが、いつか死を迎えますが、今、コロナウイルスで突然の死を迎えた人のことを思うと、とても受け入れられません。しかし、どのような不条理な死にも、希望につながる報いがあることを、わたしたちは信じたいのです。イエスの死は復活への希望であるからだ、信じたいのです。

十字架のもとで、母マリアが立っています。パンデミックに襲われているわたしたちは、この希望の信仰をもって、十字架に向き合うマリアの姿を黙想しましょう。マリアは、かつて天使が御子について述べたことばを思い起こしています。「その子は偉大な人になり、永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」。しかし、今、その約束とは反対に、御子が罪人のように十字架の上で死を迎えようとしているのです。シメオンの預言のことばを思い出します。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒し、立ち上がらせるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。」マリアは、今、御子が人類を救うために苦しむことをゴルゴダで知ることになりました。

その時、マリアに第二のお告げが行われたのです。十字架からイエスは母マリアのところに、自分の苦しみを伝えるのです。「婦人よ、御覧なさい。これが、あなたの子です」。マリアは、苦しむ人々の痛みを、ご自分のものとして、耐え忍んでおられる御子の苦しみを受け取りました。神の子の母は、苦しむすべての人の母となられたのです。イエスは、この母マリアを、ヨハネにお与えになります。「みなさい。あなたの母です」。こうして、人間の痛みは、御子が担い、母マリアがそれを受け取り、ヨハネとともに、教会がその痛みと救いの恵みを、すべての人のもとに運ぶ使命を受け継ぐことになったのです。今、パンデミックの中で、不安の中にいるわたしたちに、今日もイエスは、自分の御母をわたしたちに与え、そのやさしさと包み、強めてくださいます。

京都教区の皆さん、わたしたちも、マリアのように、苦しむ人々の救いを成就された御子の死を受け止め、キリストの十字架を仰ぐとともに、キリストとともに、苦しみに直面する人々の友となるのです。キリストの十字架の福音こそが、希望の光であると固く信じ、この困難の日々の中で、祈りと生活の犠牲をささげましょう。

パウロ 大塚 喜直